

【第1回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

平成30年8月31日

【日時】 平成30年8月21日（火）15:00～17:00

【場所】 石狩市役所2階201会議室

【出席者】 15名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	柴田 肇	○	委員	浜野 俊介	×
副会長	竹口 尊	○	委員	白井 かの子	○	委員	林 美香子	○
委員	木村 秀裕	○	委員	鈴木 正人	○	委員	原 俊彦	○
委員	河野 明美	○	委員	高梨 朝靖	○	委員	向田 久美	○
委員	小林 卓也	○	委員	田原 朋学	○			
委員	酒井 志津子	○	委員	徳光 康宏	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域創生部：渡邊部長

□事務局 石狩市企画経済部：小鷹部長、本間次長兼企画課長、中舘企画担当主査、
橋本企画担当主任、中村企画担当主任

【傍聴者】 0名

- 【次第】
1. 開会
 2. 委嘱状交付
 3. 会長・副会長の選出
 4. 総合戦略推進懇話会について（事務局説明、意見交換）
 - ・概要・スケジュール等【資料1、2、3】
 - ・平成29年度実施事業の点検・評価等【資料4】
 5. その他
 6. 閉会

＝＝＝＝＝ 会議内容の記録 ＝＝＝＝＝＝

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長・副会長選出

会長には石狩商工会議所の角川委員、副会長にはわかば地区地域会議の竹口委員が選出された。

<事務局からの確認事項（審議会の進め方について）>

- 議事録については要点筆記とし、会長が確認した上で委員に配布する。
- 傍聴者の意見については、文書での提出を認める。

※事務局からの提案について、委員異議なしとのことから承認された。

4. 総合戦略推進懇話会について

- 「概要・スケジュール」について事務局より説明【資料1、2、3参照】
- 平成29年度実施事業の点検・評価等【資料4参照】

質疑・意見

＜「平成 29 年度実施事業一覧（資料 4）」に基づき実施事業の点検・評価＞

※戦略目標ごと点検・評価を実施。「No.」については、資料 4 の左側に記載している番号

【戦略目標 1 「新現役世代」が活躍する】

（1 ページ：No.4 具体的な事業「高齢者ふれあいサロン事業展開のサポート」について）

- 重要業績評価指標（以下 KPI）に対する実績は、既に計画値を上回っているが、問題は目的や質である。引きこもりの防止や高齢者の集いの場をつくるという、この事業の目的を達成するにはサロン開設数も大切だが、サロンによってはあまり活発に実施されていない模様で、最低でも週 1 回は開催しないと効果がないと思われる。今後は数ではなく、サロンの内容の質を高めることにも力点を置くべきで、本来の目的を達成することを内部で検討してはどうか。

（1 ページ：No.6 具体的な事業「地域自治システム検討事業」について）

- 公園を活用した「ふれあいサロン」を平成 29 年度の試験的運用を得て、平成 30 年 6 月から本格的に行っている。6 月から 7 月の 2 か月間で累計 1, 0 0 0 人の利用者がいた。会館よりも身近な公園に設置したことで足を運びやすく、公園の利活用という面でも非常に好評である。この事業によって、地域の中に集いの場を作り活性化に繋げたい。ただ、運営しているボランティアの負担が課題であり、今後は有償化などの工夫が必要と感じている。

【戦略目標 2 「子育て力」をさらに発揮する】

（2 ページ：No.10 具体的な事業「農漁業者結婚支援事業」について）

- こういった取組は継続することが大事だと思う。ただ、女性は毎回新しい人が参加するが、男性はほぼ同じ人が参加するので、男性がくじけないで挑戦し続けられるようサポートが必要。また、交流会が農業にあまり関係のない内容になってしまうと、結婚した後うまくいくのかという不安がある一方、仕事としての農業の魅力を女性に伝えるのが難しいという現状がある。

- 不登校や引きこもりなど、サポートを必要とする人たちは、知らないだけで実は多くいるのではないかな。子ども食堂などの活動に、もっといろんな人が手伝えることがあるのではないかな。実際に接しないと見えてこない課題があるので、情報を共有することがまず大事である。また、一般市民がいかにそこに意識を持てるかが鍵になると思われる。

- 不登校や障がいを持っている子どもや大人、高齢者などの支援を支援しているサポート団体の運営は、国の助成金などに依るところが大きい。サポート団体を運営している者としては、地域や市による対応には限界があり、国レベルでの取組が必要と感じている。

（2 ページ：No.13 具体的な事業「石狩湾新港地域就業者のための保育機能を有する利便施設の検討」について）

- 新港地域就業者への支援は具体的にはどのような内容か。

- 事業所内保育所という形態（事業所で保育士を雇用して、従業員のお子さんのほかに、地域のお子さんを預かる枠を設ける）があり、導入している事業所もある。多くの企業でこのような体制を導入できるようサポートしていくことを想定。

○単独企業で実施するほか、団地一体で実施するなど、うまくプランニングできないかと検討しているところがあると聞いている。大きな課題と感じているので、ぜひサポートし推進してほしい。

【戦略目標3 「地域資源」からモノやしごとを創る】

（3ページ：No.21・22・26 具体的な事業「石狩ブランド推進事業」・「支援制度の創設」・「加工品の開発支援」について）

○加工品の開発は順調であるものの、ブランド認証品数や支援制度活用事業者の実績が0なのはなぜか。石狩産を使用した加工品はそもそも「石狩ブランド認証品」とはならないのか。

- 石狩ブランドの認証制度といった制度化を考えており、No. 26 の加工品はその前段階で商品開発されたものであるため、実績を0としている。ゆくゆくは石狩ブランド認証品になることが期待できるが、現状ではまだ制度化まで至っていない。

○PRの手法も何か改善できないか。例えばふるさと納税の返礼品にリストアップするだけでもPRとなる。

○石狩市のふるさと納税は増えていることもあって、返礼品への新規商品のリストアップや既存商品も更に磨きをかけて、より魅力的な商品を開発する事業者が多くなっている。

○広報誌では、観光の紹介をするのは難しい。広報誌はあくまで市民に対し市の施策を伝えるものであり、観光パンフレットとは切り口が違う。また、いろいろな内容を扱うので紙幅の問題もある。

○ブランド化は量が無ければ難しいのでは。石狩市の生産規模を考えるとまとまった量を生産できるような体制を整えることも課題である。

○道の駅が話題になり、人も集まり、商品も売れている。量は少ないながらも商品開発されたものがあるので、担当課同士でより深い話し合いを行うなどの連携をとり、今後石狩ブランドになっていけるような取組をしてほしい。

- 流通にのせられるよう販売や生産体制を含め、取り組んでまいりたい。

【戦略目標4 「いろんな顔」をつくる】

（5ページ：No.40 具体的な事業「あい風プロジェクト（道の駅）」について）

○道の駅に訪れた人の率直な感想として、商品価格の高さや、地元産品の少なさを嘆く声がある。開業直

後でありこれらの課題は今後の取組次第かと思うが、地域住民が見聞きした事や感じたことを、施設管理者に届け、反映させる仕組みがあるとよい。

○道の駅に、石狩のハマナスを使用した商品を開発して出品している方もいる。手作りのため量の問題もあり「ブランド化」とまではいえないかも知れないが、このような取組を応援することも大切だと思う。

○道の駅に商品を置いたことによってマスコミの取材を受け、その後人気が出た商品もある。地元以外にも市内への経済効果は生まれており、今後も楽しみだ。

【戦略目標 5 誇りとなる「人や文化」を育てる】

（7 ページ：No.59 具体的な事業「移住・定住促進事業」について）

○全国的に人口増減は明暗が分かれており、増加しているところは人口密集地への「交通の便が良いこと、また空港など「交通機関の要衝にアクセスが良いこと」が挙げられる。石狩市は人口密集地である札幌市に隣接しており、工業団地の石狩湾新港地域を有しているのは大きな要素である。住宅には良い立地条件なので、札幌市や新港地域と仕事等で連携が取れる形ができていけば、人口増加に繋がれると思われる。

○外国人による労働力確保の動きも全国で活発になっている。外国人の受入には、企業以外にも地域や学校など多くの機関が体制を整備する必要がある。例えば、外国人のご家族と一緒に来るようになると、子どもの教育の問題が出てくるので、地元の教育機関との連携を密にして、うまく適応できるよう準備しておいたほうがよいだろう。すでに自治体間でも競争が起きているので、自治体を挙げて取り組んでいかないと、企業も外国人を呼ぶことができない。

●外国人の住民登録者数は、現在 300 名ほどで、2 年間で 100 名ほど増加している。増加の要因は法制度が変わったことが大きい。ほとんどが単身で新港地域での就業である。企業の方で受入態勢をきちんと整えてもらっており、現在のところ企業側から市に対して相談を受けた例はないが、今後検討が必要になってくると考えている。

○移住フェアへの出展もよいが、毎年全国各地から人が来るライジングサンロックフェスティバルの会場で、石狩市への移住・定住を PR するブースを出展してはどうか。主催が異なるため制限もあると思うが、いろんな方法で石狩市の知名度を上げる活動ができると思う。

【戦略目標 6 時代にあった地域として持続する】

（8 ページ：No.62 具体的な事業「コミュニティビジネスの起業支援」について）

○空き家にカフェや食堂が入るが、1 年以内に閉店してしまうケースが多い。空き家が多いのは事実なので、うまく活用してもらうためにはどうしたらいいか、持続性を持たせることを含め、考えていかなければならない。

(8 ページ : No.63 具体的な事業「浜益区のデマンド交通」について)

○運行には前日夕方までの申込みが必要で、急用には対応できていないため、もう少し柔軟な対応をしてもらえるとうありがたい、という声を聞く。全国で似たよう地域での取組事例を調べたり、申込時間の幅を広げたり、ちょっとした工夫で質の向上が図れると思う。

※以上、点検・評価修了

●すべての点検・評価が終了したため、改善や見直しが必要である「B評価」であったものについては、持ち帰り担当課と検討させていただく。

(B評価 : No.1、No.21、No.22、No.50)

3. その他

●不登校の話題があったが、平成 28 年度から福祉と教育の連携による「子どもの総合支援本部」を設置し、子育てにおける格差是正（貧困、虐待等）にワンストップで解決できるよう取り組んでいるところである。

4. 閉会

平成 30 年 8 月 31 日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治